

國學院大學學術情報リポジトリ

出張報告 XIX International Sociological
Association World Congress of Sociology
国際社会学会第 19 回世界社会学会議

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000552

出張報告

XIX International Sociological Association World Congress of Sociology 国際社会学会第19回世界社会学会議

International Sociological Association (国際社会学会) は社会学のグローバルな学会組織として世界最大規模のもので、1949年にユネスコの援助のもとで設立されている。本学会のWorld Congress of Sociology (研究大会) は5年に一度の開催で、数千名が参加するものである。

2018年のWorld Congress of Sociologyは、7月15日から21日にかけて、Metro Toronto Convention Centerにおいて開催された。



(カナダ・トロント市内中心部)

今回のテーマは、「Power, Violence, and Justice: reflections, responses responsibilities」であった(下写真はプレナリーセッション)。



平藤は、RC22 Sociology of Religion (host committee) での発表が認められ、The Relationship in Japan between the Media and Young People's Perceptions of Religion と題する発表を行った。

本発表は、日本文化研究所が「宗教と社会」学会と共同で1995年から2015年まで実施した全12回の学生の宗教意識調査をもとにしたものである。

これまでに刊行された2冊の報告書『学生宗教意識調査 総合報告書 (1995年度～2015年度)』と『学生宗教意識調査 総合分析 (1995年度～2015年度)』から、本調査の概要を紹介した上で、信仰の有無がメディアで多く取り上げられた話題への関心と関連するのかどうかを検討した。

とくにノストラダムスの大予言が日本でよく知られ、信じた人たちがいたことが、海外の研究者にとっては意外であったようで、予想外の反響を得た。また、信仰を持つ人の割合が、男性の方が高い傾向を持つことの原因や、ジェンダーの問題などで質問を受けた。これまで関心を払ってこなかった点であるので、今後の課題であると感じた。

(平藤喜久子)